

第35回 滝川市環境市民委員会の開催結果について

開催日時	平成25年1月25日(金) 午後4時00分～午後5時00分
開催場所	滝川市役所5階庁議室
出席状況	【委員】 出席：石井委員長、伊藤副委員長、岩本委員、檜原委員、中村委員、 松井委員、水戸委員、山田委員 欠席：加藤委員、藤井委員、 【事務局（滝川市）】 市民生活部 庄野部長、石川参事 // 暮らし支援課 配野課長、橋本副主幹、畠山主事
議事内容	1 開会 2 評価報告書の提出 石井委員長から前田市長に対して、「滝川市の環境施策に関する評価報告及び提言書」が提出された。 3 意見交換 委員長）今回の評価報告書では、まず、昨年「たきかわエコネット」を立ち上げ、今年に入り具体的な運用に入ったということで、特に農業、自然環境分野を中心に民間団体の優良な取組と支援を交えながら一定の効果が出ているという点で評価をした。今後にも必要に応じて、各種団体等の力を引き出ししながら、行政としてより高い施策効果が得られるような取組を求めるところだが、行政がなんでもやるといったことではなく、そうした団体等の力を十分に引き出すようなことを行うべきであると考えている。 次に、今後の取組に向けた提言として、まずは、今年の4月から、新しい一般廃棄物焼却施設の稼働が予定されているということで、市民の側からは排出方法が変わるというわけではないが、これを一つの区切りとして、更なるごみの減量化を推進するために、改めて、市民と事業者、行政のパートナーシップを深めるための取組の強化を図るべきと考える。もう一点は、食とエネルギーが非常に大事だと考えられることと、これらはいずれも身近な生活の中での環境問題であることから、市民の意識向上と行動を促すために、さらに積極的な情報提供や取組の工夫に努めるべきであると考えている。 最後に、本報告書には書いていないが、環境基本計画にある4つの物語の視点ということで、ごみはごみ、エネルギーはエネルギー、農業は農業など、各施策がばらばらになってしまっているような印象を受けた。これらの4つの物語を串に刺すように、一つの取組を多面的にとらえて整理していくことも必要ではないかとも思う。そうした意見も今後の役に立ててほしい。 委員）もっと市民に対して環境についての知識を普及するなどして関心を高めてもらい、環境分野におけるリーダー的市民の育成を図ることにより、市での環境の取組がより広がっていくのではないかと考えている。そうした取組は、

	現在も行われているが、もっと力を入れていくべきである。
委 員	環境問題については、市だけで解決できる問題ではないため、幅広く市民や団体、事業者などとの連携を図っていくべきだと考えている。
委 員	自分はこの委員会に関わる中で、主婦の視点から廃棄物・エネルギー・食育の3つの観点から、もっと市民の共感が得られるような方向に持っていければと考えながら参加してきたが、今後も様々な団体等との連携を図りながら取り組んでいくのがよいと考えている。
委 員	学校教育では、「総合的な学習の時間」の中で、環境問題をテーマとした授業にも力を入れてきており、市でも講師の派遣や施設見学の受入等、サポート体制ができつつあるところであるが、更に、ごみ処理の問題や地球環境という大きな視点に立ったエネルギー問題等についても充実させていかなければならないと考えているため、予算付けをはじめ、未来を担う子供たちの教育について更なる協力をお願いしたい。
委 員	リサイクル推進員を更に活用していただきたいと考えている。この制度ができて10年近くになるが、もっと市民を巻き込み、環境について考え実行していく機会を増やしていくことで、市の環境政策がさらに進むのではないかと考えている。
委 員	この委員会が立ちあがった当時と比較して、例えば当時はあちらこちらにごみが落ちていたと思うが、今はそういうことも少なくなっているなど、市の環境への取組も随分進んだのではないと思う。また、周囲には、市の指定ごみ袋が高いといったことを言う人もいるが、ごみの排出量を減らすことで、個人の負担を減らすことができるし、ごみ組成調査の結果などからみても、まだ資源として活用できる紙なんかも含まれているようなので、こうしたものの分別を進めることでごみ処理量、処理コストも下げていける余地はあるのではないかと考えている。
委 員	ファームステイで道外からの子供たちの受入などをやっているが、単純に雪の中を歩くということに子供たちは喜び、感動して帰っていく。日頃、ここに住んでいる自分たちにとって当たり前の環境が、実はものすごい資産だったりすることに気がつかされることがある。滝川にはそういったすばらしい環境があること、ごみ問題にも積極的に取り組んでいることなどを学んだ。震災以降、エネルギー確保と温暖化対策のバランスがどうなるのかが不透明といった問題もあるが、一度、立ち止まって、根本を掘り下げながら、取り組んで行く必要があるのではないかと考えている。
市 長	委員会の皆様には、これまでの御協力に対して改めてお礼を申し上げる。非常にしっかりとした提言をいただいた。今後、関係所管が連携し、縦串だけではなく横串もさしてやっていく必要があるということについて、きちんと

取り組まなければならないと考えている。リサイクル推進員についても、制度だけはあるが、十分な取組がされていないということで、体制の再構築に取り組んでいきたい。

また、メガソーラー事業の誘致も決定し、継続的に風力発電なども含め、更なる導入拡大に向けて取り組んでいるが、これらは地産地消エネルギーという考え方も併せて進めていきたいと考えている。

新しい廃棄物焼却処理施設についても完成が近づいているが、市民負担をできる限り抑えるよう努めていくことはもちろんだが、一方で適正に維持をしていくためには一定の御負担をお願いしなければいけない面もあり、引き続き、皆様のご意見も伺いながら進めて参りたい。

今回、いただいた意見や報告書の内容もふまえながら、次のステップへ進めていきたいと考えている。

委員長）リサイクル推進員については、発足当初から非常に大きな役割を果たしてきたところでだが、現実的に町内会の方も担い手がいなかったり、高齢化したりで大変な状況なので、これからは町内会だけというのではなく、様々な団体が関わることでできるようなくみを構築していくことも一つの手ではないかと考えている。

委員）自分は教育者ではないが、自分たちの活動の中で子供たちと関わる機会が多く、その中で感じるのは、学校でも環境学習への取組が進められるようになり、そのことで教育現場でも一定のノウハウの蓄積がされつつある一方で、予算が十分でなかったり、情報不足で苦労されているようにも感じる。先ほどのメガソーラー事業の誘致なども含めて、市として子供たちが自分たちの地域の素晴らしい点を学べるようなバックアップをさらに進めていくべきではないかと思う。

委員長）評価シートの評価についての補足になるが、Aの数が少なくCやDが目立ってはいるが、委員会の全体の評価としては、できることから実行している結果ではないかと考えている。初めからできるものだけではないため、優先順位の高いものから順番に取組み、取組むことが難しいものが、Dとして残っているような状況である。

また、先ほどメガソーラーや風力発電を地産地消のエネルギーとして考えていくという話があったが、電気だけではなく熱や車の燃料等も含めてトータルに考えていくことも必要で、例えば、公共施設のボイラーの燃料をチップやバイオガスに切り替えるといったことや、稲わら等の活用など、幅広く取り組んでいただきたい。

市長）情報収集を行いながら検討させていただく。貴重なご意見をいただき改めてお礼を申し上げます。

4 閉会